

アロマコーディネーター講座レッスンテキストブック内容変更（第7 8版）

2012年12月1日発行の第7版より、このたび2013年6月1日発行の第8版にて、以下変更点がありますので、ご案内いたします。

ページ	変更内容
P 1	Lesson1 表紙 「アロマコーディネーター」の定義を追加（内容はテキストを参照ください）
P 15	（6）抽出方法ごとの主な精油の分類表 有機溶剤法（溶剤抽出法）に ネロリ を追加
P 20	最下部の欄外の注釈 「 性質欄の不乾性・半乾性・乾性とは・・・」を全文削除 前回の校正もれです
P 21	グレープシードオイル 説明文 他の植物オイルに比べてトコフェロールを多く含むため酸化しづらいオイルです。 微量成分中に含まれるビタミン E には抗酸化作用があり、グレープシードオイルには他の植物オイルに比べて多く含まれています。 に変更
P 42	<手順2：精油をブレンドする> 5行目 O-リングテストを用いると現在のあなたにぴったり合ったローションが作れることでしょう。 アレルギーテストを参考に、あなたにあった精油を選びましょう。 に変更 前回の校正もれです
P50	3.香りの流れをおさらいしてみましょう の模式図を変更し、右側の説明文も追加 <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 150px;">精油</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 150px;">空気中の揮発分子</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 150px;">鼻 (鼻腔、嗅上皮)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 150px;">嗅細胞 (嗅毛、匂いセンサー)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 150px;">嗅神経(嗅覚受容神経)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 150px;">嗅球、糸球</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 150px;">梨状皮質</div> </div> <div style="display: flex; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 150px;">嗅球、糸球</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 150px;">大脳新皮質</div> </div> <div style="margin-left: 20px; margin-top: 10px;"> <p>匂いの刺激は、嗅細胞で電気信号へと変えられ、嗅神経（嗅覚受容神経）から嗅球内の糸球を経て脳へと送られます。 この嗅細胞から脳へと至る構造全体を、嗅神経（第 脳神経）とも呼びます。</p> </div> <p>「梨状皮質」より先は既存の内容と同様です</p>

P 75	<p>(6) アロマセラピーの進歩 (16 世紀) 3 行目</p> <p>「本草綱目」 「本草綱目」 3 文字目の「網 (アミ)」 「網 (ツナ)」</p>
P 76	<p>(9) 化学薬剤の発達 全文を以下に変更</p> <p>17 世紀になると錬金術が懐疑的となり、無機化学が発達し始めました。 一方、有機化学が誕生したのは 19 世紀初めで、モルヒネやカフェイン、キニーネ、ニコチンなど、さまざまな植物塩基 (アルカロイド = 植物由来の含窒素化合物) が抽出されるようになりました。</p>
P 84	<p>3. 各々の危険性について</p> <p>3. 各々の安全性について に変更</p>
P 90	<p>(6) 光毒性 定義 2 行目からを変更 光感作のある精油であれば、たとえ低濃度に薄めても紫外線に当たったときに感作を起こします。ひどい場合には発ガン (光発ガン) のおそれがあります。</p> <p>紫外線のエネルギーを吸収した成分が、皮膚に色素沈着や炎症反応などを起こします (基本的に塗布した部分のみに反応が出ます)。ひどい場合には発ガン (光発ガン) のおそれがあります。 前回訂正しましたが、一部文章に誤解を与える表現があったため再訂正です</p>
P 96	<p>< 手順 2 : 精油をブレンドする > 3~4 行目 O-リングテストを用いると、現在のあなたにぴったり合ったマウスウォッシュが作れることでしょう。</p> <p>アレルギーテストを参考に、あなたにあった精油を選びましょう。 に変更 前回の校正もれです</p>
P 129	<p>< 準備するもの > 1~2 行目 無水エタノール 30cc、ミネラルウォーターまたは精製水 20cc</p> <p>無水エタノール 12cc、ミネラルウォーターまたは精製水 8cc に変更</p> <p>50cc の空容器 (ローションで一度使ったもの)</p> <p>20cc のスプレー付き空容器 に変更</p> <p>< 手順 1 : 60% のアルコール水を作る > 1 行目 20 cc 測り</p> <p>8 cc 量り に変更</p>

P 129	<p><手順 2 : 精油をブレンドする> 2 行目 合計 40 滴 合計 16 滴 に変更</p> <p>エアーフレッシュナーの使い方 1~2 行目 直接肌に付けるのではなく、カーテンやテーブルクロス、ナプキン、クッションなど お部屋の小物に付けましょう。またマウスウォッシュ用の容器に移しかえてスプレーし てもよいでしょう。</p> <p>直接肌に付けるのではなく、空間にスプレーするか、カーテンやテーブルクロス、ナプ キン、クッションなどお部屋の小物に付けましょう。</p> に変更
P 140	<p><手順 2 : 精油をブレンドする> 2 行目 (今回は 25% で香水を作ります) を削除</p>
P 141	<p>図の右側 精油 25 滴 精油 20 滴 に変更</p>

以上、お手元での追記・修正をお願いいたします。

平成 25 年 6 月 1 日
J A A 事務局